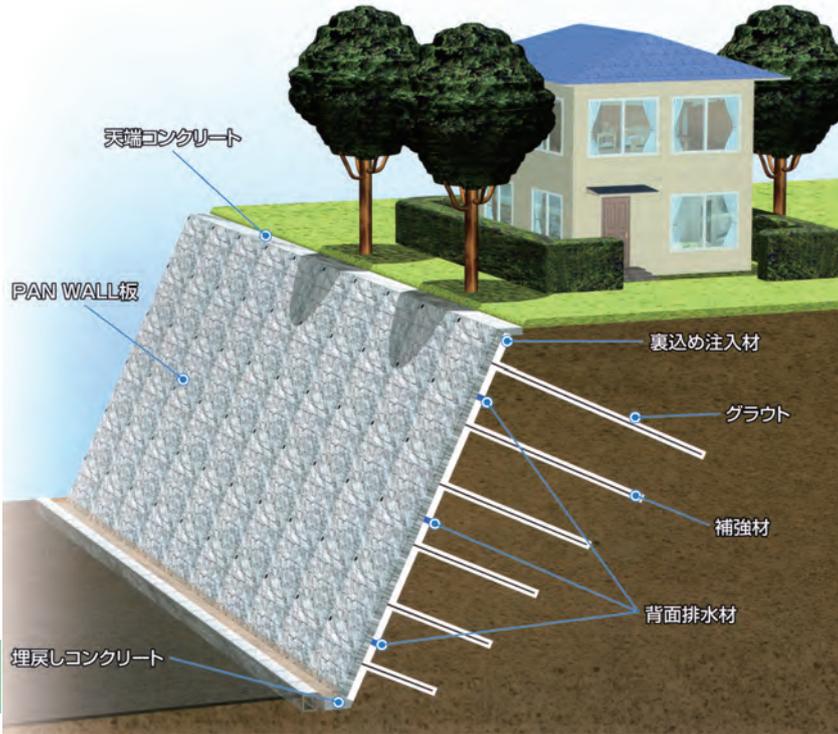


PAN-WALL (切土補強土壁工法)

NETIS 登録 No.CB-980093-V
茨城県新技術 IT'S 登録 A-06028



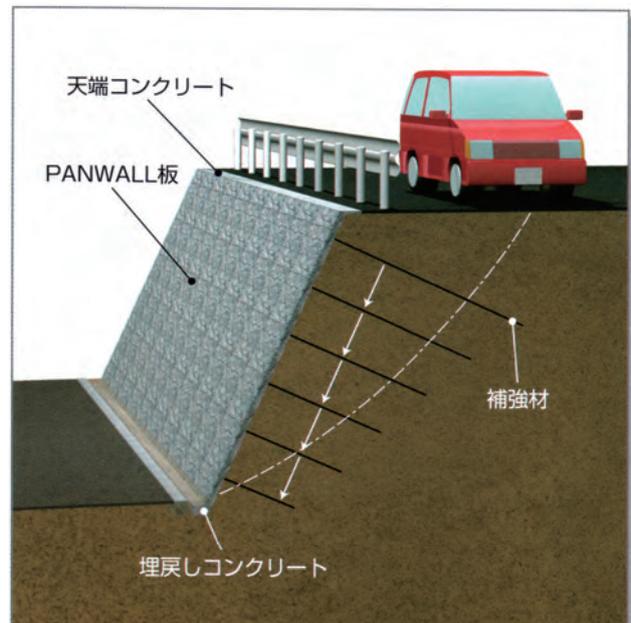
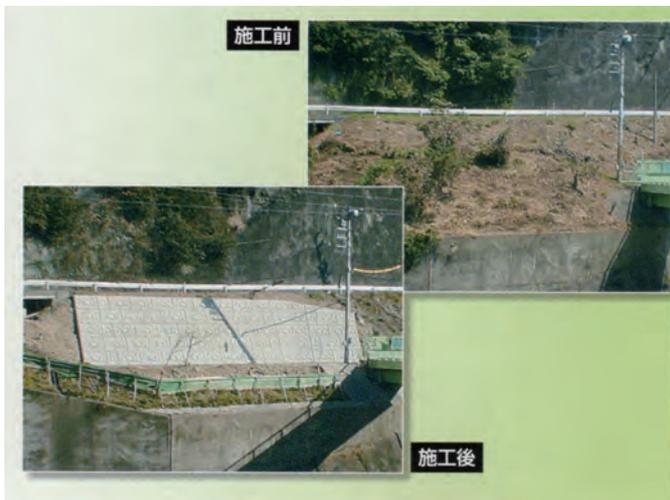
PAN(Panel And Nail)WALL 工法は急勾配斜面安定工法、地山土工法の表面保護として、プレキャストコンクリート板を使用して、急勾配(1分～5分)化により自然法面を可能な限り残し、逆巻き工法を基本とした安全性の高い工法です。また、PAN WALL 工法の特長としては、
①急勾配(1分～5分)化による長大のり面の低減と掘削残土量低減ができる。
②構造物を上から下へ仕上げる逆巻き施工により、支障物の保護と施工中の地山のゆるみ防止と崩壊自己防止となる。
③表面保護工のプレキャスト化による、品質の向上と、工期短縮と省力化ができる。
④意匠デザインの多様化による景観対応ができる。
以上の4点があります。

補強土壁

PAN WALL 工法の用途

① 既設道路・構造物・境界の保護

道路の新設工事や拡幅工事等で斜面を切土して構造物を構築する場合に、上部に支障物があり、容易に移設出来ないときや、従来の擁壁、ブロック積み等のような背面掘削を必要とする方法では対応出来ないときに、逆巻き施工や急勾配により対応が可能。

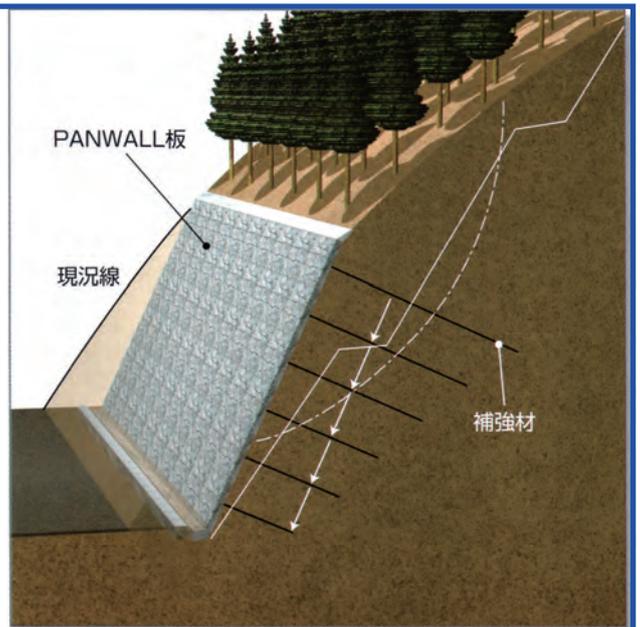
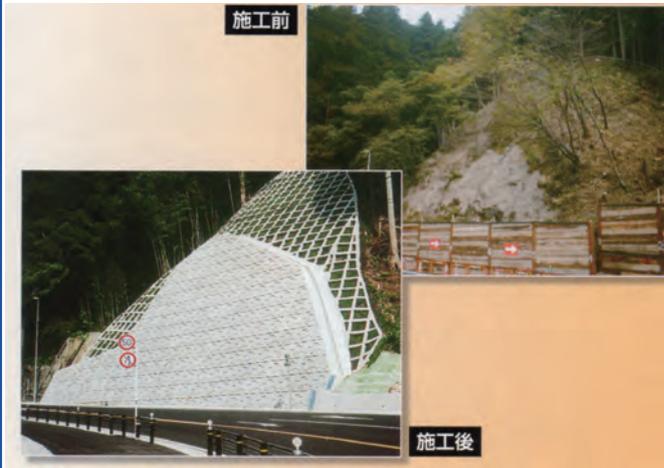


PAN-WALL (切土補強土壁工法)

PAN WALL 工法の用途

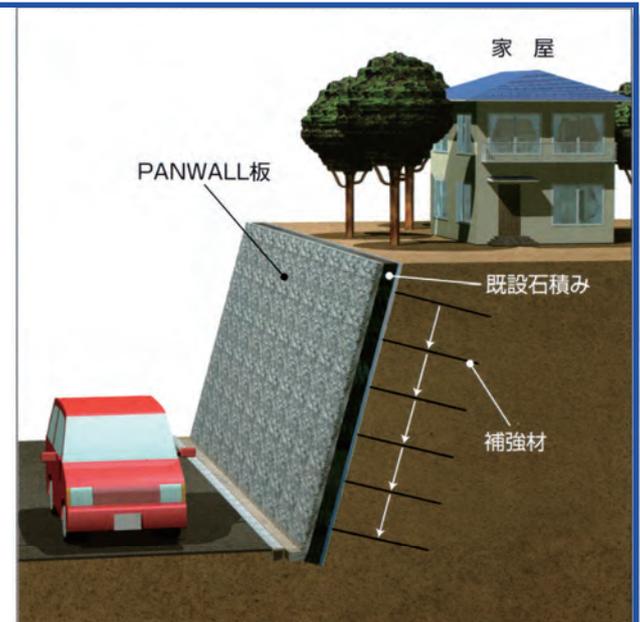
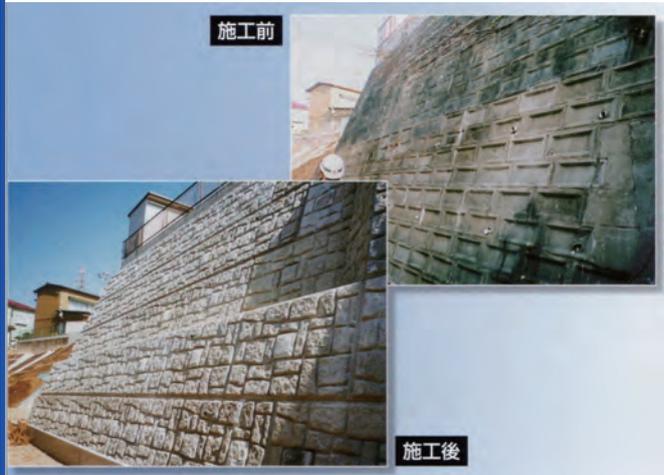
②長大法面の低減 (自然法面の保護)

山間部などに道路を構築し長大法面となる場合、自然斜面を最大限残す必要があるケース、また掘削に伴う残土量の低減の必要があるケースに有効である。



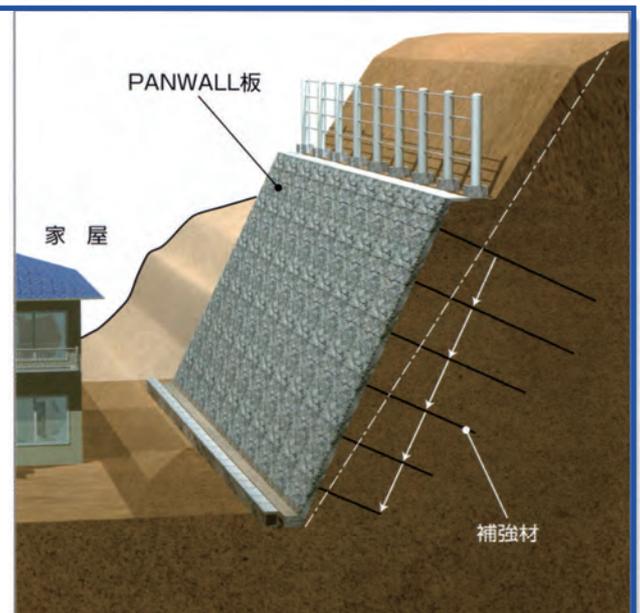
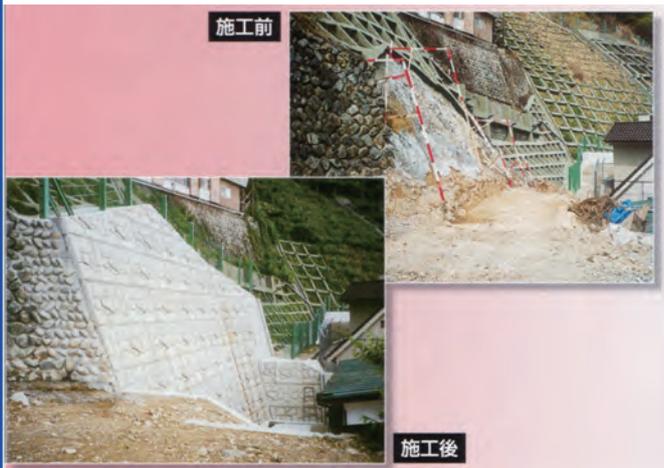
③既設石積一風化岩盤の補強

道路に面した既設構造物 (石積み、ブロック積み) が老朽化したり変状が生じた場合に既設石積み (既設ブロック積み) を残したままで補強ができるので、影響 (廃棄物の減少を含め) を最小限に抑える目的で有効である。



④急傾斜地崩壊対策事業

急傾斜地崩壊対策事業において、従来の擁壁、ブロック積み等のような背面掘削を必要とする場合に上部の用地境界、支障物に影響がでるケース、また施工中の掘削法面が降雨等により崩壊の危険があるケースに有効である。

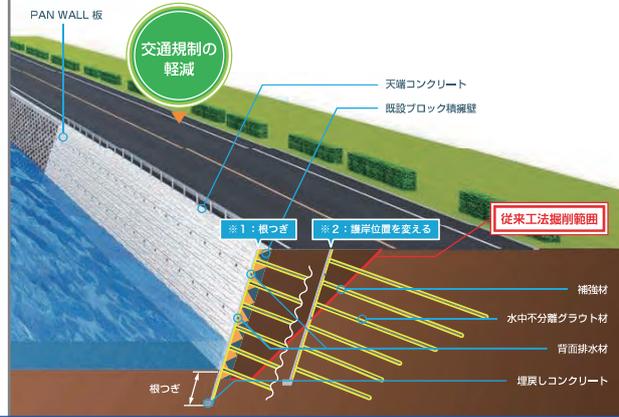


PAN-WALL (切土補強土壁工法)

PAN WALL 工法の用途

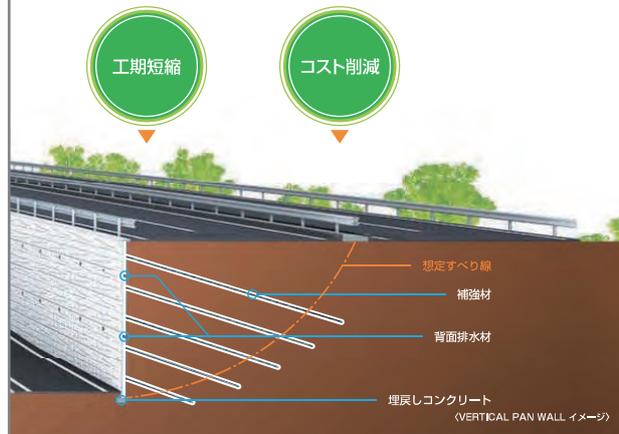
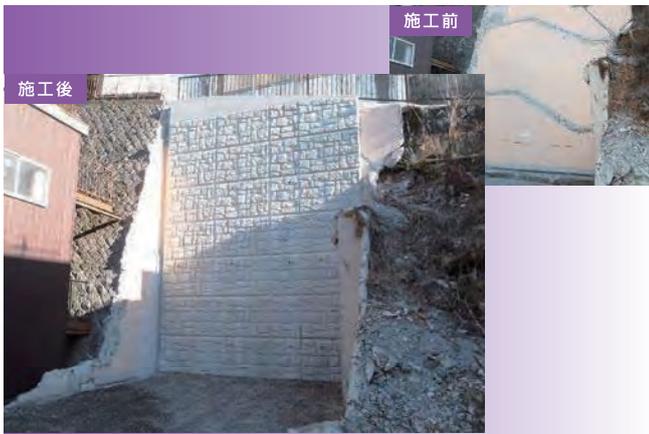
⑤ 河川施工

新設河川・水路の護岸構築、および老朽化した河川護岸ブロック（石積・ブロック積）を残したまま補強できるので、廃棄物を低減し、上部道路の交通規制をしなくても施工することが可能です。



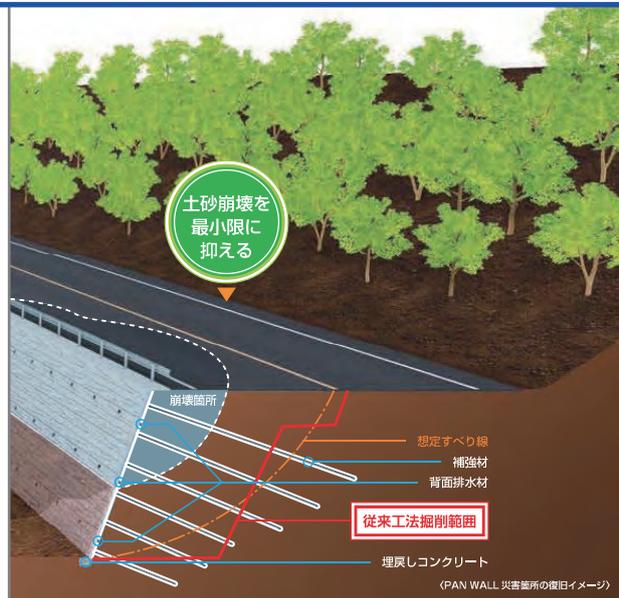
⑥ VERTICAL PAN WALL

VERTICAL PAN WALL は、壁面が垂直な「片持ばり式擁壁」「L型擁壁」「逆T型擁壁」「U字擁壁」さらに「山留め式擁壁」の代替案として適応範囲が拡大しました。様々な実証実験により従来工法と比べ同等以上の性能が期待でき、工期短縮・コスト削減・環境負荷低減など多くの優位性が認められます。



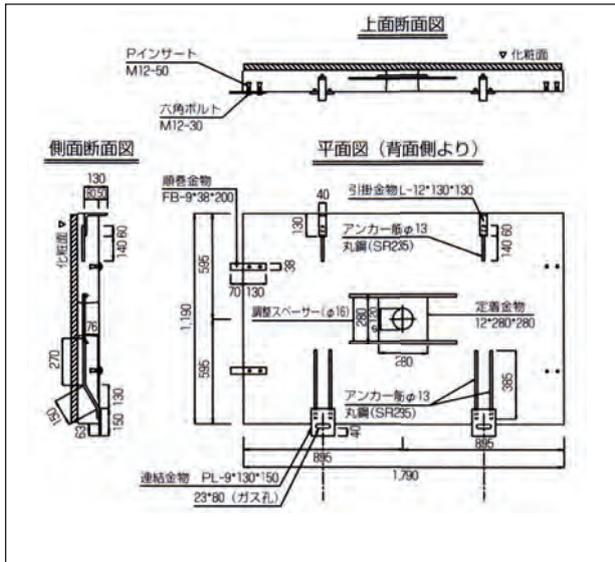
⑦ 災害箇所の復旧

法面が崩壊し上部の構造物に影響が発生する恐れがある箇所において、PAN WALL 工法は土砂崩壊の影響を最小限に抑えて施工することが可能です。

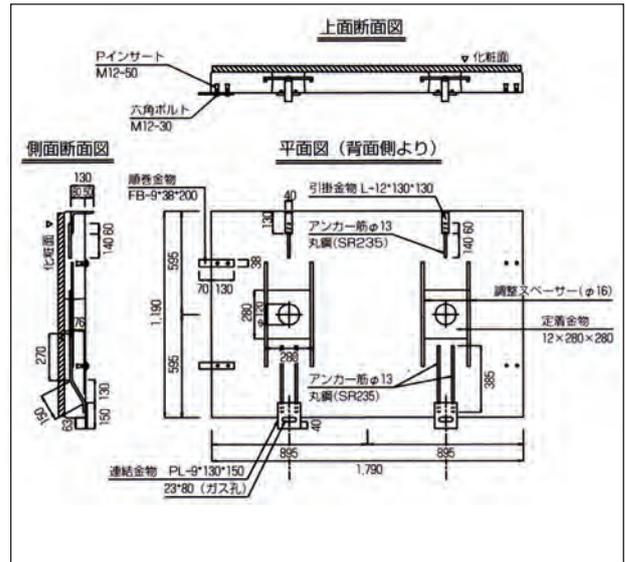


PAN-WALL (切土補強土壁工法)

PAN WALL 工法の寸法表



S Type (1 穴)



D Type (2 穴)

呼び名	寸法 (mm)			参考質量 (kg)
	H	h	L	
パンウォールSタイプ (定着孔 1 カ所)	1000	500	1998	800
パンウォールDタイプ (定着孔 2 カ所)	750	375	1998	800
パンウォールHタイプ (定着孔 1 カ所)	500	250	1998	400